

かみさと



学校教育目標

豊かな心をもち

他のために行動できる子

やさしく かしこく

たくましく

①かんがえて行動 ②みんなにあいさつ

③そい合って働く ④ともだちを大切に

さいたま市立上里小学校 学校だより

令和2年10月31日(土) 11月号

発行者 校長 梶山 崇

〒339-0006 さいたま市岩槻区上里2-2

TEL048-794-2316

一生懸命はかっこいい

教頭 松村 克弘

毎朝「おはようございます」と元気に登校してくる子どもたち、「行ってらっしゃい」と子どもたちを送り出してくれている保護者の方、「おはようございます」と子どもたちをいつも優しく見守ってくれている地域の方、「今日も頑張ろうね」と子どもたちを迎える教職員。肌寒くなったとはいえ、この地域からは、毎朝温かい気持ちが上里小へ届いています。

さて、先日本校で小運動会が行われました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年と異なり、小規模での開催となりました。そのような中でも子どもたちは、自分の種目に対して友だちと協力し合い、練習を通して個人として、集団として成長してきました。1, 2年生のカラフルな衣装での元気いっばいの集団演技、3, 4年生のソーラン節を織り交ぜた力強いお助け綱引き、5, 6年生の組体操の一人技の後の迫力ある台風の目など、各学年の演技構成も楽しませてもらいました。何より、子どもたちの笑顔、それを見守る保護者の方々の笑顔が大変印象的でした。364人の子どもたちの躍動を目の当たりにすると「可能性」という言葉が改めて実感できます。「もし」「もしも」は、将来起こりうることを想定・仮定するとき用いる言葉ですが、漢字で「若しも」とも書きます。「若者」より更に若い子どもたちが目指す演技の頂点、競技の勝利には、常に「もしも」のドラマがあります。ある新聞で読んだ記事に「LIFE」という単語には「IF」が隠れているとありました。その「IF」を信じて最後まで頑張る子どものひたむきな姿に、深い感銘を受けます。結果として、競技で負けてしまった子どもたちも同様に、一生懸命に取り組んだことは、貴重で素晴らしい体験であったことでしょう。

また、保護者の皆様におかれましても、平日にもかかわらず学校からのお知らせを守っていただいたことはもちろん、子どもたちへの熱の入ったご声援・拍手を送っていただき感謝申し上げます。

「一生懸命だと知恵が出る。中途半端だと愚痴が出る。いい加減だと言いつけが出る。」これは、戦国時代の武将、武田信玄の言葉とされています。

一生懸命とは、命がけで事に当たることです。命がけでやれば、何が何でもやろうとするので、知恵をしぼり、知恵が出るものです。中途半端とは、態度などが徹底せず、どっちつかずの状態であることです。態度が徹底せず、どっちつかずの状態であれば、自分を棚上げして不満ばかりでてくるので、愚痴しか出ません。いい加減とは、仕事を最後までやり遂げずに途中で投げ出すさまです。仕事を途中で投げ出せば、弁解して責任転嫁したくなってしまう。そもそも、一生懸命であれば、中途半端になる暇もないし、いい加減になる暇もありません。つまり、一生懸命であれば、愚痴を言う暇も言い訳をいう暇もないということです。

まだ2学期半ばですが、保護者の皆様、地域の方々、教職員が一丸となり、お互いに知恵を出し合いながら、子どもたちの成長を見守っていけるよう努めていけたらと存じます。

今後とも、子どもたちのために、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。